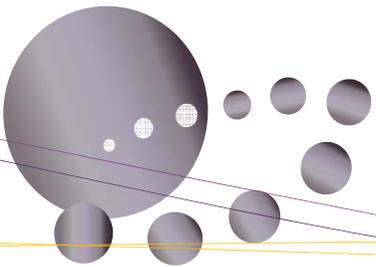




デジタルコンテンツに対するDOI活用の可能性



2018年3月



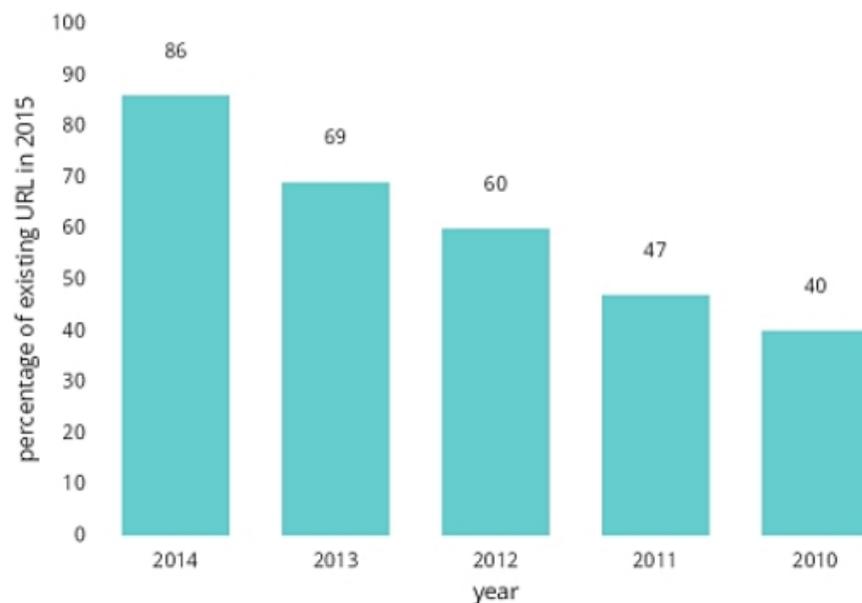
ジャパンリンクセンター事務局（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST））

1. URL変更によるリンク切れの実態

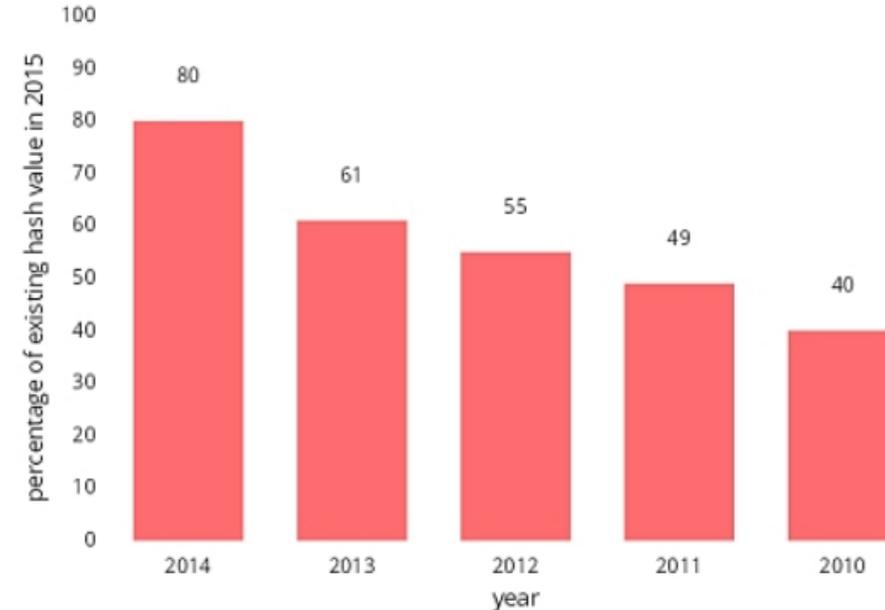
URL と DOI

メタデータから、コンテンツ本体にリンクするには、 → URLの利用が多い
ウェブコンテンツはどのくらい消えていくのか

でも！



URLの残存率 2015年4月に調査した結果



内容の残存率

国の機関サイトの残存率調査

<http://warp.da.ndl.go.jp/contents/recommend/collection/linkrot.html>

<http://current.ndl.go.jp/e1757>

2-1. 国際標準の識別子：DOIとは？

- **D**igital **O**bject **I**dentifierの頭文字で、コンテンツの電子データに付与される国際的な識別子である。
- DOIは、ISOにより標準化された規格(ISO26324:2012) である。

DOIの例：
DOI-Prefix ↓ DOI-Suffix ↓
10.1241 / johokanri.56.881

アクセスする際のURL ⇒ <https://doi.org/10.1241/johokanri.56.881>

- 各機関固有のDOI-prefixと、個々のコンテンツを特定するDOI-suffixとを「/」（スラッシュ記号）でつないで並べた構文となっている。
- DOIの前に、「https://doi.org/」を付けることにより、URLとして機能する。
→つまり、Webにつなげれば確実にコンテンツにたどり着くことができる。

2-2. DOIの役割 恒久的なアクセスを実現!

削除

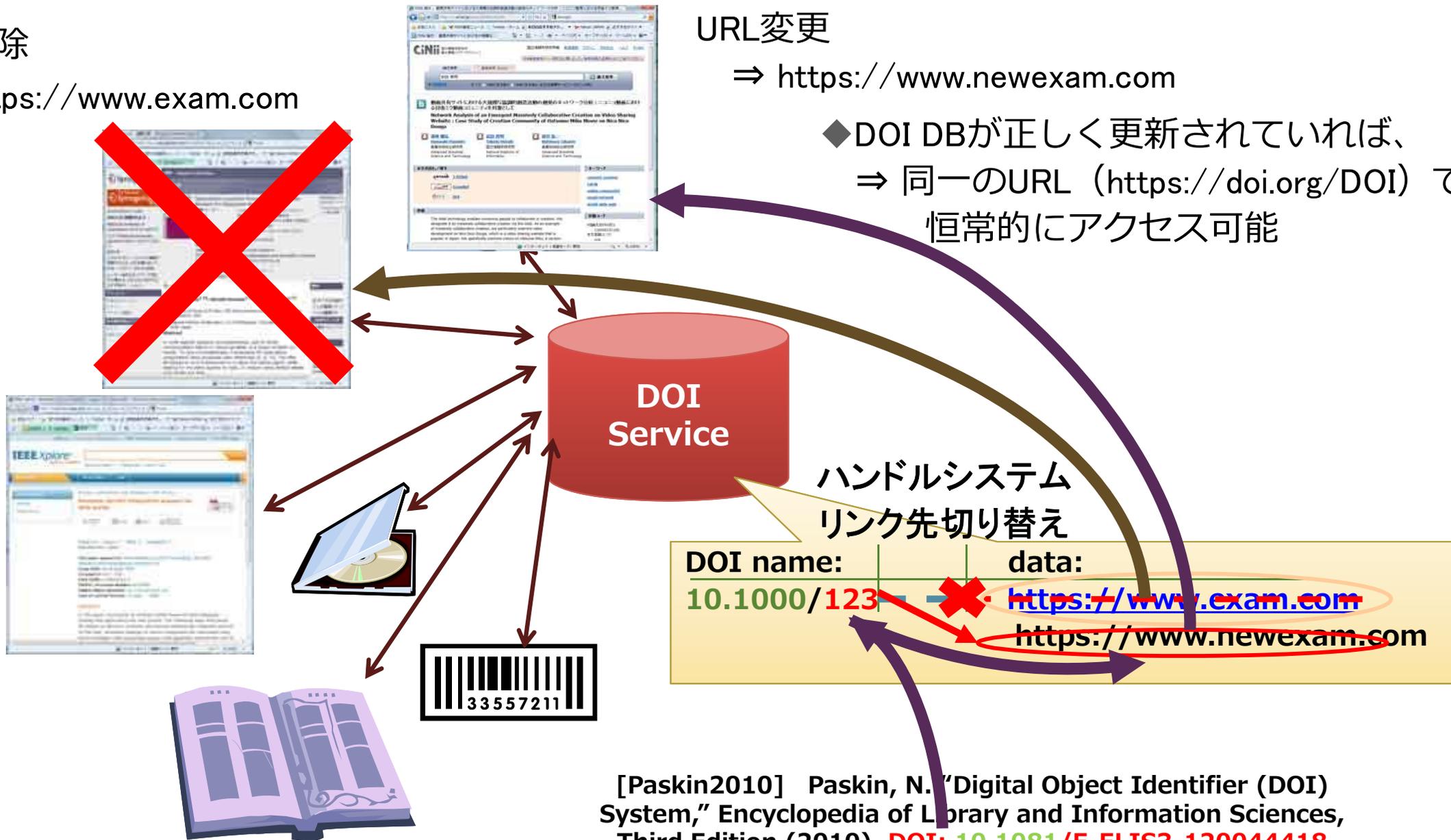
<https://www.exam.com>



URL変更

⇒ <https://www.newexam.com>

- ◆ DOI DBが正しく更新されていれば、
⇒ 同一のURL (<https://doi.org/DOI>) で
恒久的にアクセス可能



2-3. DOIがなぜ永続性を保てるのか

- DOIの永続性は、技術的仕組みと社会的仕組みで維持されている。

<技術的仕組み>

Handle system

識別子とURLを結びつけて解決する仕組み

<社会的仕組み>

登録に際しての会員制

永続性を保つことに協力する会員のみが登録できる。

- ・ URL等が変更されたときは、変更手続きを実施する。
- ・ 当該コンテンツへのアクセスを保証する。維持管理
(削除は原則実施しない。)
- ・ 速やかに適切なメタデータを作成し提供する。

等

なお、アクセスできる仕組みを持つこととオープン化とは別の話。

3.国文学研究資料館殿でのデジタルコンテンツへのDOI活用例

国文学研究資料館では、所蔵する古典籍画像について、DOIを付与しています。

<メリット>

1. 同じ作者が同じタイトルで書いた作品が複数あっても区別できますので、論文に引用した古典籍画像に、**恒久的に確実に**到達できます。
2. 個別のシステムに入って検索することなく、**Webで簡単に**画像を確認できます。

アクセスする際のURL ⇒

<https://doi.org/10.□□□□/○○○○○○○○>

国文学研究資料館蔵「優曇華物語」

DOI:10.□□□□/○○○○○○○○



(文化元年 鶴屋喜右衛門刊)

DOI:10.□□□□/△△△△△△△△



(嘉永元年の後印)

薄墨色の背景がなくなる

(出典)リーフレット「論文に引用する古典籍にDOIを明示しましょう」国文学研究資料館作成 より、表現・配置等をJSTが改変

ご清聴ありがとうございました。

ぜひとも【P06】
ポスターセッションにおいで下さい